

令和元年度 社会福祉法人大喜福祉会 喜楽苑
活動報告

令和元年度の社会福祉法人大喜福祉会を取り巻く情勢は、第4次産業革命の真直中にあり、AI、ビッグデータ、IOT、ロボット等のイノベーションが、経済社会のありようを大きく変化させた。

この様な中、当法人では「地域に根ざした施設づくりに努める」の理念を持って、多職種連携により自立支援や重度化防止に向けた科学的介護を実践し、日常生活機能の向上を図るよう努めてきた。

更に地域で暮らす高齢者の方が生きがいを感じながら、安心して在宅での生活が継続して行けるよう、また南部圏域に於ける「地域福祉の拠点」としての使命を果たすべく以下の項目に重点を置き活動を展開してきた。

1、積極的にあいさつをする。

職員が明るい笑顔で積極的に挨拶することで、利用者や家族との信頼関係がより密になった。職員間ではチームワークがより強固となり大きな力を発揮出来るように取り組んできた。周囲からの評価は得ているが、中には自から積極的に挨拶することへの抵抗感なのか重要さを理解しきれてない職員も散見された。

また人工知能や介護ロボット等を活用した、生産性向上の推進による業務負担の軽減や職場環境の改善には重点的に取り組んで来た。

2、心も体も健康な体力ある職員づくり。

「地域交流広場」が完成し地域の方や各種団体の方が夫々の目的、目標を持って充実した余暇時間を過ごせており素敵な光景や賑わいの場を提供出来ている。

利用者の方には、積極的にリハビリ遊具や多目的広場、ウォーキングコース等各自に応じた種目で、計画的に身体機能の維持改善に努めてきた。

また9月に厚労省より受けたユースエール企業認定も後押しとなり新卒者や優秀な専門職員の採用が出来、離職者も激減し労働力不足は解消出来ている。

3、多職種連携による入院者ゼロを目指す。

入居者の方、利用者の方それぞれの個性を生かしたケアを推進し、特に認知症ケア、リハビリテーション、看取りケアの充実を図ってきた。更に多職種連携による科学的介護を実践、口腔ケア基本技法の習得は達成し、今後共中長期の計画を以ってケアの実践継続展開して行くことで入院者ゼロを目指して行く。

2019年度 社会福祉法人大喜福社会 喜楽苑 事業報告

【 特別養護老人ホーム 喜楽苑 従来型 】

“活力あるチームづくり” ～笑顔で挨拶活気ある従来型へ～
排泄技術の向上を図る レクレーションの充実

従来型・各班ともにチームワークもとれ、雰囲気の良い1年であったと感じる。

接遇・マナーについてはセルフチェックシートを定期的に記入し振り返りの時間を設け職員への意識付けはできたが、時間の経過とともに意識も薄れる傾向にあるため今後も継続課題とする。

排泄ケア技術の向上では、オムツ業者の変更があり漏れが生じた時期もあったが、1年を通して漏れは減少傾向にあり、皮膚トラブルも大きな褥瘡形成も無かった。

今年度見守りセンサーの導入・インカムの導入と ICT (情報通信技術) 活用もでき、業務効率化・介護負担軽減に貢献できたと感じる。

今後も新たな ICT の活用に向け情報収集の必要がある。

新年度より寝具も新たに変わりさらに期待が膨らむ。

この年度目標は単年度で終わらせるものではなく持続可能な目標であり、継続することで標準化され、成果を定着させるという SDCA サイクルと改善を行う PDCA サイクルを同時に回しながら介護の品質と介護職員のレベルアップを図る必要がある。

【 特別養護老人ホーム 喜楽苑 ユニット 】

1.自分から先に笑顔で挨拶をしよう。

入居者に対しても職員間でも挨拶はできているが、笑顔がみられないこともあった。笑顔は心を和ませ、モチベーションも上がるので継続して取り組んでいく。

2.考えて動ける職員になる。

フロア状況を見ながらインカムを使用し、職員間で連絡を取り合い、自発的に動けるようになってきた。入居者目線に立ち、日常の余暇時間の過ごし方等にも少しの工夫があるとよかったと感じる。

3.看取りケアの充実を図る。

褥瘡予防に努め、ベッド上で安楽な姿勢で休めるよう、クッションの当て方等工夫し、写真を撮りケアを行ったが、統一できていないこともあった。また体調を見ながら、可能な限り、フロアで他入居者と共に生活を感じてもらえる時間を作った。口腔ケアや清拭等についても意識して取り組めた。今後ご家族、多職種と連携協力し取り組んでいく。

【 医務室 】

「多職種連携し入居者の健康維持に努め入院者ゼロを目指す」

○口腔ケアを充実させ、誤嚥性肺炎を予防する。

○スキンケアを充実させ、皮膚トラブルや尿路感染を予防する。

上半期は口腔ケアに介入する機会が殆どなく反省点としてあげられた。

下半期は職員の増員もあり、従来型を中心に口腔ケアへの介入の機会を増やすことができた。そのことにより入居者の口腔環境の観察ができ、ケア不足の確認もすることができた。

誤嚥性肺炎による入院者はいなかったが、体調を崩される入居者はおられ今後も引き続き取り組みを行う必要がある。

スキントラブルについては、褥瘡委員会との連携で新しい洗浄剤の導入やケアの徹底を図った。徐々にトラブル発生は改善見られている。

2月に従来型入居者 10 名の方がインフルエンザに罹患された。感染症予防対策の見直しと徹底を図る必要がある。

【 調理 】

1.多職種と連携し、栄養ケアの充実を図る。

食事摂取量や体重の変化、喫食状況、状態把握を行い看護師や介護職員の意見を聞きながら食事形態の検討や食事量の見直しを行うことができた。

モニタリングと評価をしっかりと行い、改善すべき課題設定が一人一人できるようにしていきたい。

2.食べる楽しみを感じられる満足度の高い食事を提供する。

給食の委託業者が6月に変更になった。クックチルシステムの導入により出来上がった料理が納品されるため、利用者に合った硬さや大きさの提供が難しいメニューもあり、そのため当初は残食が多かった。温め時間の調整や指定塩分内での味の付け直し、食材の大きさの調整などを行った。また、森永食研さんにその都度改善の要望をし、徐々に改善出来ている。月に一度の行事食や毎日の食事を美味しく食べていただけるために努めていく。

3.委託業者と情報や意識の共有を図る。

朝の朝礼を重視し、利用者の食事の情報や献立の確認を行い配膳ミスのないように努めてきた。しかし、配膳前に事前に気が付き未然に防ぐことができたが、アレルギー食材の提供事故が発生した。今後、事故のないようにコミュニケーションを密にし、安全な食事が提供できるように努める。

【 事務室 】

1.積極的にあいさつをする

～明るい笑顔で、相手に聞こえるような声の大きさと、自分から積極的に挨拶をする～年間を通して挨拶はできているが、声の大きさ・丁寧な対応については行き届かないこともあった。マスク着用しているため表情が伝わらず、笑顔も欠けることも多かった。今後も笑顔を忘れず、表情や声の大きさにも注意し、更に意識を高めて取り組んでいきたい。

2.心も体も健康に

～それぞれが計画的にリフレッシュ休暇を取得し、ウォーキングコースを活用しながら、心身ともに健康づくりに努める～

毎月の勤務表に有給休暇を組み込むことで、計画的に全員が平均取得できている。

今後も計画的に取得し心と体のリフレッシュを計っていきたい。

通勤時にウォーキングコース活用をしたり、3月になり気候が良くなってからは就業後に歩けたが充分ではなかった。今後は歩く時間を見つけることを意識し運動量を増やしていきたい。

【 多機能ホームきらくの湯 】

1.プロ意識の向上 (苑内研修、勉強会の参加)

積極的に研修に参加することで、技術を高め知識を深める。

参加人数を数値化する事で、参加意欲を高める。

勉強会や研修会に参加する事で、知識や技術の向上を目指した。外部研修については、管理者研修、ケアマネ更新研修が主となった。職員一人一人が、小規模の特性や役割を理解し、利用者一人一人のニーズに合ったサービスが提供できるよう、研修会の参加や自己研鑽に努めていく必要がある。

2.在宅生活の継続 (統一した支援を行う)

過剰な介護は行わないよう心がけ、職員全員が統一した介護を行う。

一人一人の出来る事を表にする。

プランや個別援助計画書の作成についてはできている。利用者のプランや個別援助計画書の確認を提案したが職員一人一人確認、周知が出来ていない。また、アセスメント、評価、見直し、PDCAサイクルが上手く回っていないと反省する。

3.職員の健康維持（心と身体の健康づくり）

ウォーキングコースの活用、個人目標を立てる。

無理せず長続きするようにお互い声かけ、個別の目標管理にて取り組んでいる。

利用者の健康管理にも、意識を持って対応できるようにしていきたい。

【 デイサービスセンター喜楽苑 】

1.「和顔愛語」～ワンストップ挨拶～

利用者や家族に対してはもちろん職場内でもその場が明るくなるような気持ちの良い挨拶ができている。しかしワンストップ挨拶については、業務に余裕がない時、場合によっては、気持ちにゆとりがなく立ちどまり挨拶が出来ていない事もあった。今後も笑顔で思いやりの言葉で、人に接し相手の気持ちにより添えるように努力したい。

また、利用者一人一人に対して尊敬の気持ちを持ち、家族に対しても失礼のない心遣いを心がけたい。

2.笑顔と体力づくりでストレスゼロ

職員が笑顔を忘れずいつも笑いが絶えないことで免疫力を高める事が出来た。

さらに改修により整った環境で口腔ケアに力を入れる事ができ体調管理に努める事が出来た。

職員の体力づくりの実施については、個人差があるものの健康意識が高い。

また、地域交流広場を利用して勤務終了後皆でウォーキングを行ったり、苑外活動（チャレンジウォーク）に参加によりストレス発散も十分に出来、チーム力も強固出来ている。

有給休暇についても計画的に取得出来ている。

3.「伝える力」個々のプレゼン能力を高める

報、連、相が確実に出来ず言葉が足りない為に伝えているつもりで伝わっていない場面があった。伝え方の違いで捉え方も違うと感じる事もあり今後は、真意が上手く伝わるように解かりやすい言葉で丁寧に対応できるように心がけたい。

意識して研修内容の報告や活動・会話にて伝える機会を強化出来た事で昨年に比べ「伝える力」を高める事が出来た。また、専門職によりミニ知識を広報誌発行にて伝える事が出来、個々の能力アップにも繋がっている。

【 ホームヘルパーステーション喜楽苑 】

1.利用者の個別ケアを理解して笑顔で寄り添う。

認知症が進行して、以前はヘルパーの声掛けが理解出来ていたが、出来なくなった方もいた。支援方法の見直しや訪問時間の変更などがあり、対応も多岐にわたるようになった。利用者の実際の声や傾聴し、さりげなく手伝ったり声掛けして励ましたり、時には冗談を言って笑ったり、スキンシップも行い対応した。認知症の方は細かい配慮や日々の変化が多いので情報の共有も必要になった。利用者が一番不安を感じていると思うので笑顔で寄り添う事の重要性を痛感した。

2.多職種と連携して利用者をチームで支える。

在宅で生活している方は、家族や地域の方の情報も常に必要である。デイサービスや訪問看護師、ケアマネジャーなどの専門職とは、連絡したりノートなどで連絡を密にとっている。入浴介助中に体調不良になったり、看取りの利用者については更に細やかな情報交換が必要である。再度、ケア方法や緊急連絡先などの確認を行ったりしてチームで支える事が出来た。

3.地域交流広場を活用して体力作りに努める。

毎週、グランドゴルフをする職員もいたり、暖かい日はウォーキングをしたりした。職場のグランドゴルフ大会に参加したり、ノルディック研修で歩けた事は楽しかった。寒くなってからのグランドの利用回数は減ったが、インボディを利用して体内の筋肉量や脂肪量が分かり参考になった。全員が健康に過ごせたことは良かった。

【 介護保険サービスセンター喜楽苑 】

1.明るい挨拶で良好な関係づくり

連絡・調整と挨拶が基本としての部署なので、明るく笑顔で対応できるように努めてきた。訪問の際の近所の方への挨拶・車の置き場所などにも配慮を行ってきた。細かな所にも気を配れるよう今後も努めていく。

2.健康意識を高め合い精神力・体力の向上

利用者の方との関係は、ほぼ以前と変わらないが、家族との連絡・調整により大きなストレスを感じる事が多かった。精神力が本当に鍛えられるようなことが増えてきた。事務所に戻ると、そういうことも互いに言い合える関係になってきたこともあり、愚痴も多かった気がするが居宅全体では大きな成長はした気がする。良くも悪くも前に進めた一年だった。

【 日田市南部地域包括支援センター 】

○中津江地区を中心として地域との関りを深める

・福祉関係者会議にて包括から提案する

・地域のリーダーやキーパーソンを探す

・集まりの場の情報収集を行う

・集めた情報を見える化する

・中津江福祉関係者会議にて「10年後中津江で暮らすために必要なもの」「認知症との向き合い方」の講話を行い中津江地区の地域づくりの支援を継続している。

・介護予防の取り組みとして週1通いの場の推進に取り組み、天瀬町袋地区において住民主体の週1通いの場が発足した。

・第3回 SOS 行方不明者捜索模擬訓練を11月に天瀬で開催。認知症の啓発活動ができた。認知症初期支援チームと協働し個別支援を行った。

・虐待通報対応4件

今年度、地域づくりにおける自治会長へのアプローチが少なかった。来年度は具体的に取り組んでいきたいと考えている。

令和元年(2019年)度事業報告

社会福祉法人 大喜福社会

	毎月開催	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
社会福祉法人 大喜福社会			監事監査	理事会・評議員会 評議員会(主任合同)	理事会(入札)					理事会			理事会
特別養護老人 ホーム喜楽苑	誕生日会	素人芝居見学	ふるさと巡り サービス相談委員会 入所判定委員会	福祉体験教室	サービス相談委員会 おしごと体験教室	第23回夏まつり ふるさと巡り	敬老会 サービス相談委員会 福祉体験教室	くにな見学 家族旅行	サービス相談委員会 ふるさと巡り	もちつき大会	サービス相談委員会		
ユニット	誕生日会		サービス相談委員会	ふるさと巡り	サービス相談委員会 ふるさと巡り	夏祭り 入所判定委員会	敬老会 サービス相談委員会 ふるさと巡り	ふるさと巡り	サービス相談委員会 入所判定委員会 ふるさと巡り	餅つき大会 クリスマス会	サービス相談委員会	節分	
医務室	体重測定			入居者血液検査	入居者尿検査	入居者胸部レントゲン検査 (8/8)			インフルエンザ予防接種 (入居者・職員)	入居者血液検査	入居者尿検査		
老人デイサービス センター喜楽苑	誕生日会・できたておやつ 生きがいサロン 運動教室	園芸活動 施設長講話 花見ウォーキング	野外活動(ハウ見学) 園芸活動・屋外クッキング	施設長講話 お楽しみ会(ボランティア) 家族介護者教室	そうめん流し	施設長講話 デイ作品展 改修工事	敬老会(ボランティア) 名所めぐり	野外活動(くにな) 施設長講話・園芸活動 福祉まつり出品	野外活動(案山子) 野外活動(高塚) 改修工事完了	施設長講話 家族介護者教室	新年会(職員出し物)	節分 施設長講話 うめ見学	野外活動(ひな祭り)
ホームヘルパー ステーション喜楽苑		県ヘルパ協議会全体研修 (勉強会)											
多機能ホーム 「きらくの湯」	買い物 できたておやつ 制作活動	野外活動 小規模ひた連絡会	運営推進会議 園芸活動・お楽しみ会 遊花祭・食事会	野外活動 園芸活動	園芸活動・野外活動 運営推進会議	園芸活動 勉強会 (小規模合同研修)	運動会応援・野外活動 運営推進会議	野外活動(案山子) くにな見学 小規模ひた連絡会	運営推進会議 福祉まつり	クリスマス会 小規模ひた連絡会 鍋パーティー	野外活動(初詣) 運営推進会議 お楽しみ会(食事会)	節分・野外活動 駅伝応援 鍋パーティー・合同研修	野外活動(梅まつり)
介護保険サービ スセンター喜楽苑	ケアマネ会議・ケアマネ研修 情報共有会議		ケアマネ協議会勉強会			他居宅合同事例検討会						他居宅合同事例検討会	
日田市南部地 域包括支援 センター	職種別会議 ケアマネ勉強会・相談会 主任ケアマネスキルアップ研修	認プロ専門部会議	ランチ合同会議					ランチ合同会議	SOS行方不明者捜索 模擬訓練				ランチ合同会議
給食	できたておやつ		端午の節句行事食		七夕行事食	アイスクリームの日 海の日行事食	敬老の日行事食	ハロウィン行事食	文化の日行事食	クリスマス会行事食	おせち料理(お弁当)	節分行事食	桃の節句行事食
委員会会議等	リーダー会議 各部署職員会議 各種委員会 苑内研修		職員親睦会		人権研修	夏まつり反省会					職員新年会		新採用就職説明会
施設外研修	主な研修を抜粋	ユニットリーダー研修 新任職員研修 各事業協議会総会 等	中堅職員研修 新任職員研修 経営者協議会総会 久大ブロック施設連絡会総会 等	久大ブロック施設連絡会総会 AIロボット視察 給食担当職員研修 ケアマネ更新研修 等	認知症介護実践者研修 指導監督職員研修 九州施設研究大会 相談業務担当職員研修 等	介護事業経営セミナー 介護予防推進事業研修 等	若手社員パワーアップ研修 デイ稼働率アップ研修 コミュニケーション力向上研修 生活支援記録法研修 等	県老協臨時総会 通所介護部会セミナー 社会復帰促進センター視察 等	施設長研修会 県実践研究大会 ケアマネジメント研修 介護予防職員育成 推進事業体験発表 等	元気アップ体操交流会 外国人受入推進セミナー プロ意識醸成研修 地域包括ケア推進大会 等	アンカーマネジメント研修 老協施設長研修 おもてなしの心とマナー 等	生活支援記録法研修 効果的な部下新人育成研修 等	
その他	口腔ケア指導 市介護相談員 喫茶きら(月2回) *デイ改修工事	施設内新人職員研修 職員面談 喜楽苑だより発行	家族会役員会 総合防災訓練 職員旅行 献血	ブルーベリー収穫祭 家族会総会 消防点検 地域ふれあい懇談会 職員旅行	家族会周辺整備 喜楽苑だより発行 貯水槽清掃 水質検査 福祉体験教室	職員健康診断(8/8) 初盆参り おしごと体験プログラム	上半期部署会議 地域ふれあい懇談会 グランドゴルフ大会 (職員)	総合防災訓練 職員中間面接評価 献血 ユースエール認定	久大ブロックミニハレ大会 グランドゴルフ大会 (地域)	水質検査	消防点検 喜楽苑だより発行	夜勤業務者検診(2/6) 健康経営優良法人2020 (大規模法人部門)認定	職員最終面接評価 浄化槽清掃・水質検査 下半期部署会議